

人妻課長
霧島

真紀(29) の憂鬱

社内での執拗なセクハラに
悩んでいます！

露骨に、無遠慮に、
性的な視線を送りつけてくる部下達…

舐めまわす様に、私の^{からだ}姿態を
視姦し、臭い息を吐きかけてくる
同僚・上司達…

ああ…いつの時代も
女性は男達の本能に、欲望に
汚され、蹂躪され…
泣き寝入りするしかないので
しょうか…

否っ！！
私は負けませんっ！！

彼らの想像の中でどんなに淫らに
激しく犯されようとも…
私は強く、気高く、立ち向かうのですっ！！





図2を見てもらえば
わかるように、
今年度の進捗は
前年に比べて...

だつて、感じるもの
視線を...お尻に...
熱く淫らな視線を感じるもの
荒く湿った吐息を感じるもの...

なんてことっ!
大事なミーティングなのに、
いやらしいっ、破廉恥だわっ!?

いいえ聞いてないわっ、
間違いないっ!

現在^{いま}はミーティング中...
でも...
部下^{このたち}達...ちゃんと話しを聞いているのかしら



あ、あなた達っ！

ちやんと
聞いているのっ！？

大事な話も聞かないでっ
おんな
人妻の尻に夢中なのっ！？

情けないっ
嘆かわしいっ！

負けない…私…

負けないんだからあつ！



部下達の欲望がとうとう爆発しました！

目を血走らせ、息を弾ませ

人妻の、年上の女の乳房を遊ぶ彼ら...

こんなことっゆ...許さない...んっだ、だからあ...

私を囲み、壁に押し付け...乱暴にシャツを開き...

だっ...め...んっ...やめっな...んっ

んっ...んっ...んっ...



スカートをたくし上げ、
お尻を突き出すように
強要する部下達…

腕を振り上げ…

嬉々として…
人妻の尻を…

上司の尻を…!!

代わる代わる
叩き続ける部下達…

やめ…
あつ

んっんあつ

あつ

ああつ

Rada
Rada

男の欲望を…
日頃のストレスを…
私のお尻に叩きつける…
嘲笑と罵声を浴びせながら…



「あ〜夢みたいだぜ
あの課長のケツを『デカ尻を』」

「いいいい加減に…
しな…あつ…」

「いつもいつも
デカ尻振って誘惑しやがって
はあはあ『たまらん』」

「『ヒロインパンツはぎやがらん
こんな少ない面積じゃ
その尻肉かくせねえたるらろ』」

「ゆ、許さないわよ…
絶対に…許さないん
だからあ…」

「許さないって…課長
人妻マ○○濡れ濡れっスよ」

「『ヒロイン上可マ○
汁でデカデカ』」

「下の口はバクバク物欲しそうに…
そうですか、コレがダブルスピークですかそうですかw」

「ち…ちが…
違うの…そうじゃ…あ…」

「見ないで…マ…マ○
私のはしたないマ○
見ないですっ…」

「見ないでえつて…
課長…いかにでしよ？
マ○コ丸出しw」

「見せつけてたの
ソッチじゃないスか」

ん…
うう…

「ケツ穴どくついてますよ？
いいんすか？
オフィスで下半身晒して
セクハラでしょコレ」

オフィスで下半身を晒し、
部下達に局部を食られる…

人妻として…
社会人として…
女として…決して…

あつはならなら…
許されない…

「悪い上司だw
お仕置きですわねw」

あつ、ああ…
んっ…あつ、ああつ…

淫乱上司のケツを
入る入る入る入る入る入る



あつめ…
だめえ…

んんん

しかし彼らは
それだけでは…当然…満足せず…

「あつめだめえ」

「あつめだめえ」

彼らは彼らの太く固く脈打つ肉棒を！
夫のソレより立派なモノを！

私の膣内なかに
押し入れてきました…

んあつ！？

ひゃんっ！
んひゃんっ！

あつあつ…
だ…めえつ…あんつ

あつあつ
あつあつ
あつあつ



あっあっ

あんっあんっ

だらしなく口開いてないでほら、
手、手動かしなさい、ほら？んw

い、いやああつ
あんっめえ...っ
らめええええ...っ

「いつもいつも
偉そうに命令しやがって
こら、おらおら」

お、奥...おくうううっ
ぐりぐり...っ

ぐりぐりらめええっ

「あ、締まる...」

「仕事で締められるさすがカチヨウw」

「ほら、課長
お手々がお留守ですよ。」

アッ
アッ

「おら、喰らえおらっ
ぐりぐり、おらおらっ
アッ



「おっ
ち○ぼ喰えおっ」

次々とねじ込まれる…
人妻の膣内に押し入ってくる
若い男根…

「好きか？ち○ぼ好きか。
おら、答えるおら」

しゅ…
しゅきい…

何度も何度も…
部下達に…彼らの硬い腰に
突き上げられる上司の柔尻…

ち○ぼおお
しゅきい…

激しく、濃密なミーティングは
その日…延々と続きました…
いつ終わるともなく…

若い彼らに…
肉を食られ…膣内をかき回され…
子宮を穢され…
そして…地位を、誇りを…人格を否定され…

「おっおっ
クンの鳴けっおっ」

おっおっ
おっおっ
おっおっ
おっおっ

旦那ち○ぼより
しゅきい…

でも…だめ…
私は…上司として毅然としていなければ…
妻として…貞淑であらねば…
そして…女として…

あとがき

JK寝取られモノを書いていたのですが色々納得できず保留に...

同時進行していた真紀さんを先に。ページ数が少ないので、保留物の数ページをおまけでつけます。

コレもシリーズ化したいなあと思うものの、ネックは私の生産力のなさ...う〜ん...がんばります。



お買上げいただき誠にありがとうございました。(次ページよりおまけ)

0152

ち○ぽには...
勝てませんでした...ああ...

やはり私は...
ただの...雌...

ち○ぽ...

ああ...
無理い...

